

常歩無解

第6回

～滝上高校の軌跡～

第6回となる今回は、4月より赴任された、滝上高校 吉田 享平（よしだ りょうへい）教頭に取材させて頂きました。

吉田教頭は、札幌市の出身で教員歴としては26年、英語の教員として勤務されておりました。滝上高校が教頭初任となっております。

スポーツはラグビーを高校時代に経験しており、教員になってからもラグビー指導に力を注いでこられたそうです。

○赴任した時の滝上高校の印象はどうでしたか？

初任の函館西高校 前任地の函館水産高校は都市部の高校で合計8年したが、2、3校目の赴任地は岩内高校で9年、富良野高校で9年と地方の学校での期間が長かった。地方の学校の方が良いと思っていました。都市部では難しい地域と連携した教育を行うことができるので良いと感じています。

生徒を見て、その後ろに見守る親や子どもを支える地域の人の顔が見えるのがとても暖かくて良いと思います。

あと、校舎が綺麗に整備されている印象があります。広いグラウンドの整備が行き届いていたり、古い施設も大切に扱われていて、卒業生も校舎を大切に使っていたのが伺えます。とても清々しいですね。

また、私のお世話になった人で、

「辻 信哉」先生という方がいます。私の仲人も務めて頂きました。昨年、その方へ滝上高校への異動の報告をした際には病気で亡くなられていました。

その時辻先生の奥様から話を聞くと、辻先生も教頭の初任地が滝上高校だったそうなんです。なので私は滝上高校に縁を感じています。

○7月に学校祭がありましたがいかがでしたか？

生徒全員が燃えるように一所懸命に取り組んでいた印象です、生徒一人一人が「完全燃焼」するまで熱中して頑張っていたと感じます。

単純に考えて、生徒の人数が少なくなっているのに対して、出し物の数が去年とほとんど減っていない。生徒達は行燈行列、出店、合唱、演劇、展示、バンド、ダンスと濃密なプログラムでしたが、誰かにさせられるわけではなく、滝高祭50年の伝統を担うものとして、滝高の学

校祭はたくさんのお出し物を来場者の皆さんに楽しんで頂くものだから、私たちが頑張る。という気概を感じました。

○今の滝上高校についてどう感じていますか？

今の生徒たちの活動をいかにして、地域の人に知ってもらおうのかが重要だと考えています。

そのために尽力する、教員の先生方も一所懸命です。現在9人の先生

方で29人の生徒を指導しておりますが、教員集団のクオリティがとても高い。個々の特筆したスキルもさることながら、生徒一人一人に親身に接している。ただ単に仲が良いだけでなく、プロの教育者として接しています。9人の教員18の目ですっかりと生徒を見つめているのは滝上高校ならではの物だと思えます。

○最後に地域の皆様へ一言お願いします。

教頭として初めて赴任したのが滝上高校でよかったです。とても素敵な保護者、地域の人々、教員、そして生徒に恵まれ、支えられて幸運です。ありがとうございます。

これからも滝上高校をよろしくお願ひします。

